

中小企業における生産性向上の鍵 戦略的アプローチと実践的手法

田村IE技術事務所
技術士(経営工学部門)
代表 田村豊氏



1977年、住友金属工業(株)に入社。IE室長として、鍛造・溶接・機械加工・組立の各工場における生産性向上に取り組み、2018年「田村IE技術事務所」を設立。

Contents

- ・ 寄稿
IEで生産性向上！儲かる改善のススメ・・・7～9頁
- ・ 事例① MH精工(株)…………… 10頁
- ・ 事例② ストロング金属(株)…………… 11頁
- ・ 事例③ (株)竹中製作所…………… 12頁
- ・ 事例④ ダルマ精密(株)…………… 13頁

寄稿

IEで生産性向上！儲かる改善のススメ

田村IE技術事務所 技術士(経営工学部門)

代表 田村 豊氏

日本政府は、企業が生産性向上を
経済成長や国際競争力の維持にとつ
て重要な政策課題と位置づけ、技術
革新やDX化の推進等、様々な先進
的な政策を進めている。しかしここ数
年、特に中小の製造業において原材料

トリアル・エンジニアリング)を經
営者と従業員両方が一丸となって活
用し、儲かる改善で生産性向上を進
めることが必要だといえる。今回は
このIEについて紹介する。

IEは生産性向上の技術

等の大幅なコストアップに加え、労働
市場の多様化と少子高齢化による労
働力不足で生産量を確保できず、そ
の結果、コストと量の両面で収益確保
が厳しい状況となっており、この傾向
は今後も更に拡大すると考えられる。
政府の政策は長期的には正しいと思
うが、今は企業収益の確保のため
に、まずは企業が抱える様々な製
造ロスの発生原因を究明して、少な
い労働力でロスコストが出ない製造
方法の確立を、投資を抑えて実行す
る取り組みが必要となっている。

IEが得意とするテーマは、①工
程分析で全体の製造フローを工程分
析図表で整理して、非効率な工程を
見える化し、全体最適の視点で効率
化の課題を発見する。②稼働分析で
生産設備や作業者の稼働状態を要素
作業レベルで定量化し、価値の低い
作業を主体にその削減方法を、E(排
除)C(統合)R(交換)S(簡素)
等の改善視点で具体策を発見する。

そのためには、製造ロス低減に適
した管理技術であるIE(インダス

この続きは会員事業所
のみご覧いただけます